

視点

「『“新生”室蘭製作所グループ』に向けて」

株式会社日本製鋼所室蘭製作所 理事副所長

(北海道生産性本部：2018年7月室蘭地区支部長)

三好 洋喜(みよし・ひろき)氏



略歴: 1964年広島県出身。88年3月関西大学経済学部経済学科卒業。同年4月(株)日本製鋼所入社広島製作所総務部経理課配属、92年本社経理部、97年本社人事教育部、2001年本社人事教育部労政GM、15年本社人事教育部長、17年10月室蘭製作所副所長。現在に至る。

株式会社日本製鋼所室蘭製作所は1907年の創業以来、北海道室蘭を発祥の地とし、これまで基幹産業向けに大型鋳鍛鋼品、鋼板、各種塔槽、産業機械製品を供給し続け、世界有数の素形材メーカーとして112年にわたり事業を続けている。

当製作所を取り巻く事業環境は、得意とする大型火力の需要減と英国原発プロジェクト頓挫による電力・原子力市場の低迷など厳しい状況にあるものの、一部鋳鍛鋼製品の需要回復並びに鋼材鋼管製品市場での好転の兆しが見える中、昨年度に引続き黒字が見込まれる状況にある。

しかし、米中貿易戦争や欧州・中東を代表する情勢不安を受け世界経済の減速が引続き危惧される等、懸念事項がある中では現状に安堵する事無く、邁進し続けなければならない。

既に成熟産業となっている鉄鋼事業は、今後の大きな成長を期待する事はできず、素形材・エネルギーを柱としている室蘭製作所の安定黒字体質確立のためには、事業拡大・収益安定化に寄与する将来への布石を早期に打つことが重要となる。

その第一の取り組みは、事業領域の拡大である。従来製品に加えた新事業として航空機、水素、結晶、金属、機能材料等の各テーマに注力し、将来の室蘭製作所グループを支える柱とすべく事業化を促進している。

加えてスピード感を重視し、パートナー企業とのアライアンスへも積極的に取り組んでいる。

月島機械株式会社殿との協業においては、市川工場の設備を当製作所構内へと移設し、2019年4月より操業を開始した。

また、昨年8月にはJX金属株式会社殿との合弁により「室蘭銅合金株式会社」を設立し、高機能金属材料分野における事業拡大を推し進めており、2021年度上期からの製造開始を予定している。今後も両者におけるシナジー効果を最大限に発揮出来るよう、しっかりと生産立ち上げ支援を続けていく。

第二の取り組みは組織体制の変革である。2020年4月1日に、これまでに機能分社してきたグループ会社の統合を行い、新会社を誕生させる。

これは一気通貫で品質・コスト・納期改善を実施できる組織体制を確立し、全体最適の面から業務プロセス改革を推進する事で、①当社の強みである「素材・加工の一環製造」を更に進化させ、製品競争力を強化する。②製品の収益性を向上し、持続的な発展を続けることを狙いとしている。

加えて成長分野への積極的な設備投資も続け、室蘭製作所グループの「新生」を実現したい。

企業の成長と発展は、人と組織力に支えられている。これまで脈々と受け継がれてきた当社の技術・技能の伝承を絶やすことなく、後世へ確実に引き継ぎ、未来を切り拓くための人材確保・育成を通して室蘭製作所グループの総合力を発揮すべく、「新生室蘭製作所グループ」を作り上げ、新たな一歩を踏み出したい。